

平成 19 年 1 月 26 日

燃料油高騰の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(平成 18 年 10 月現在)

日本内航海運組合総連合会
運賃・用船料委員会

・アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成 18 年 10 月 3 日～11 月 10 日

(前回調査)平成 18 年 4 月 3 日～4 月 20 日

対象事業者数：200 事業者 (内航総連合会調査による元請^ハレター 237 社中上位 200 社)

回答事業者数：138 事業者 (前回調査 152 事業者)

有効回答率：69% (前回調査 76%)

捕捉率：年間輸送量ベース 86% (前回調査 91%)

(回答事業者の平成 17 年度年間輸送量 ÷ 17 年度内航船全輸送量：内航総連合会調査)

：年間消費量ベース 87% (前回調査 87%)

(回答事業者の平成 17 年度年間燃料消費量 ÷ 17 年度内航輸送船舶統計年報による年間消費量)

・調査結果の概要

(1) 全体調査

平成 17 年 3 月末 (A 重油 40,900 円/KL C 重油 30,800 円/KL) と平成 18 年 9 月末 (A 重油 64,900 円/KL C 重油 54,050 円/KL) との価格差 A 重油 24,000 円/KL C 重油 23,250 円/KL の荷主への転嫁率は 51% である。(前回 51%)

しかし、転嫁率が 20% 未満の該当事業者は、40 事業者あり、回答事業者の約 3 割を占めている。(0% のもの 17 社 (12%) を含む。)

(2) 品目別調査

転嫁率の高い品目は、コスト保証方式を採用しているセメント (100%)、石灰石 (96%) 及びバンカーサーチャージ方式を契約条件に導入している一般貨物船鉄鋼 (86%) となっている。

転嫁率の低い品目は、一般貨物船鋼材以外、砂・砂利、自動車となっている。

また、石油については、転嫁率が 40% 台となっている。

転嫁方法としては、バンカーサーチャージ方式が前回調査より 4% 上がって、61% となった。これは前回運賃値上げの割合が高かった一般貨物船鋼材がバンカーサーチャージ方式による事業者が増えたためである。

また、RORO 船、砂・砂利、その他の品を除く全品目でバンカーサーチャージ方式の比率が上がっている。特に一般貨物船鋼材、石灰石での割合が高くなった。

満足度としては、現状の 5 割が不満となっている。また、転嫁されていないものが 38 件 (16%) となっている。

・調査結果

1．燃料油の年間消費量について

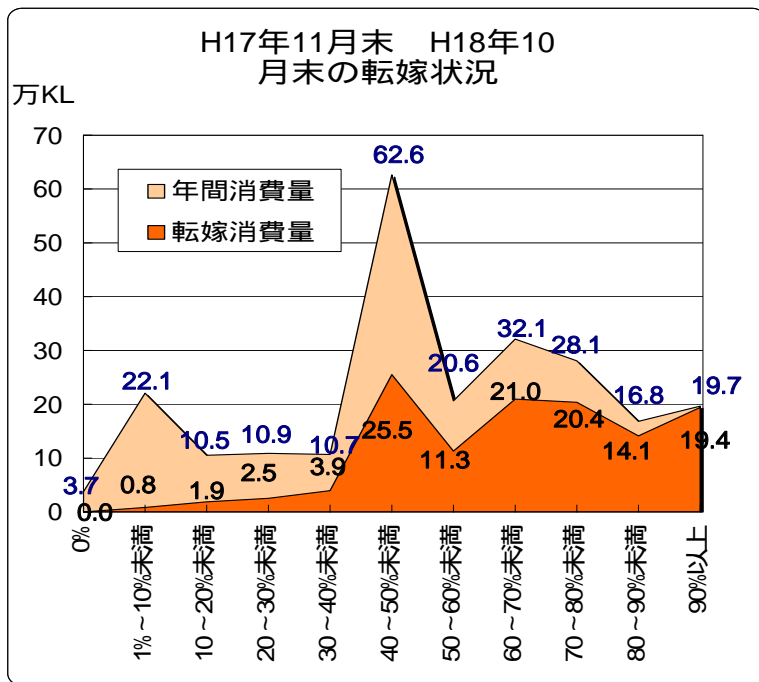
(単位: KL)					
調査時期	A重油	割合	C重油	割合	計
平成18年4月	687,327	29%	1,693,625	71%	2,380,952
平成18年10月	633,744	27%	1,744,344	73%	2,378,088

内航主要オペレーター138社(全輸送量の86%)の年間消費量は、2,378,088KLとなり、平成17年度内航船舶輸送統計年報による年間消費量274万KLの87%となる。

2．燃料油価格値上がり分の転嫁状況

転嫁割合	平成18年10月調査						平成18年4月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
	0%	37,384	2%	0	0%	17社	12%	46,325	2%	0	0%	18社
1%～10%未満	220,796	9%	8,309	1%	20社	14%	315,766	13%	9,027	1%	33社	22%
10～20%未満	105,153	4%	18,723	2%	3社	2%	93,865	4%	10,635	1%	8社	5%
20～30%未満	108,733	5%	25,314	2%	9社	7%	345,695	15%	83,678	7%	13社	9%
30～40%未満	106,755	4%	39,312	3%	12社	9%	102,832	4%	33,260	3%	9社	6%
40～50%未満	626,328	26%	255,222	21%	11社	8%	231,207	10%	102,489	8%	13社	9%
50～60%未満	206,342	9%	112,770	9%	15社	11%	158,703	7%	81,253	7%	13社	9%
60～70%未満	321,046	14%	209,591	17%	11社	8%	237,743	10%	151,183	12%	16社	11%
70～80%未満	280,699	12%	203,771	17%	10社	7%	150,679	6%	108,900	9%	7社	5%
80～90%未満	168,316	7%	141,194	12%	11社	8%	381,347	16%	328,790	27%	9社	6%
90%以上	196,536	8%	194,333	16%	19社	14%	316,790	13%	308,164	25%	13社	9%
計	2,378,088	100%	1,208,539	100%	138社	100%	2,380,952	100%	1,217,379	100%	152社	100%
転嫁率51%						転嫁率51%						

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



転嫁消費量は全体として121万KLとなり転嫁率は前回と変わらず51%となった。転嫁率40%以上の転嫁量の増加は、運賃値上げ及びバンカーサーチャージによる転嫁がなされた為と思われる。しかしながら一方で、20%未満の事業者は40事業者もあり全体の約3割を占めている。

3. 品目別転嫁状況

(1)品目別に転嫁の程度・転嫁方法・燃料消費量別に集計した結果、つぎのとおりとなった。但し、品目別の回答は、1事業者が複数回答するため回答件数が回答事業者より多くなる。

全体

(単位:KL、%)

平成18年10月													平成18年4月												
品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)							品目名	燃料消費量		転嫁量及び転嫁率			転嫁量内訳(%)						
	該当件数	消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーチャージ	コスト保証	と	と	と	該当件数		消費量	該当件数	転嫁量	消費量に対する転嫁率(量)	運賃値上げ	バンカーチャージ	コスト保証	と	と	と		
1 RORO・コンテナ船貨物	18	563,289	17	310,131	55%	10%	53%	1%	32%	0%	4%	1 RORO・コンテナ船貨物	18	569,181	17	290,008	51%	5%	59%	7%	0%	29%	0%	0%	
2 一般貨物船鋼材以外	51	520,481	39	72,248	14%	23%	52%	0%	25%	0%	0%	2 一般貨物船鋼材以外	59	236,560	42	54,680	23%	56%	17%	3%	0%	23%	0%	0%	
3 一般貨物船鋼材	33	274,620	28	235,090	86%	13%	72%	1%	13%	0%	1%	3 一般貨物船鋼材	38	225,748	37	152,323	67%	39%	55%	1%	0%	4%	0%	1%	
4 ケミカル	23	55,416	20	22,736	41%	36%	16%	6%	36%	6%	0%	4 ケミカル	28	110,719	20	27,918	25%	40%	12%	11%	26%	5%	5%	0%	
5 石油	34	471,544	27	221,115	47%	4%	84%	1%	4%	0%	7%	5 石油	32	547,697	27	265,198	48%	1%	82%	0.1%	2%	9%	0%	6%	
6 特殊タンク	26	100,488	25	58,599	58%	12%	35%	30%	20%	3%	0%	6 特殊タンク	29	147,148	25	63,756	43%	12%	33%	31%	0%	9%	0%	15%	
7 その他専用船砂砂利	8	10,914	2	3,571	33%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	7 その他専用船砂砂利	10	13,071	3	3,791	29%	6%	0%	94%	0%	0%	0%	0%	
8 石灰石	16	148,048	15	142,657	96%	1%	87%	4%	1%	0%	7%	8 石灰石	12	58,330	10	53,493	92%	12%	73%	8%	0%	8%	0%	0%	
9 セメント	20	110,328	20	110,133	100%	3%	9%	88%	0%	0%	0%	9 セメント	21	160,065	20	155,860	97%	2%	7%	92%	0%	0%	0%	0%	
10 自動車	4	106,753	4	19,347	18%	5%	95%	0%	0%	0%	0%	10 自動車	8	200,206	8	45,692	23%	0%	86%	14%	0%	0%	0%	0%	
11 その他	10	16,207	8	12,912	80%	34%	9%	33%	24%	0%	0%	11 その他	12	112,227	9	104,660	93%	2%	90%	4%	0%	4%	0%	0%	
合計	243	2,378,088	205	1,208,539	51%	9%	61%	12%	15%	0.2%	3%	合計	267	2,380,952	218	1,217,378	51%	11%	57%	17%	1%	12%	0.1%	2%	

* %の合計が必ずしも100%にならない場合がある。

転嫁率が前回調査を上回った品目としては、RORO・コンテナ貨物(51% 55%)、一般貨物船鋼材(67% 86%)、ケミカル(25% 41%)、特殊タンク(43% 58%)、砂・砂利(29% 33%)、石灰石(92% 96%)、セメント(97% 100%)の7品目となっている。

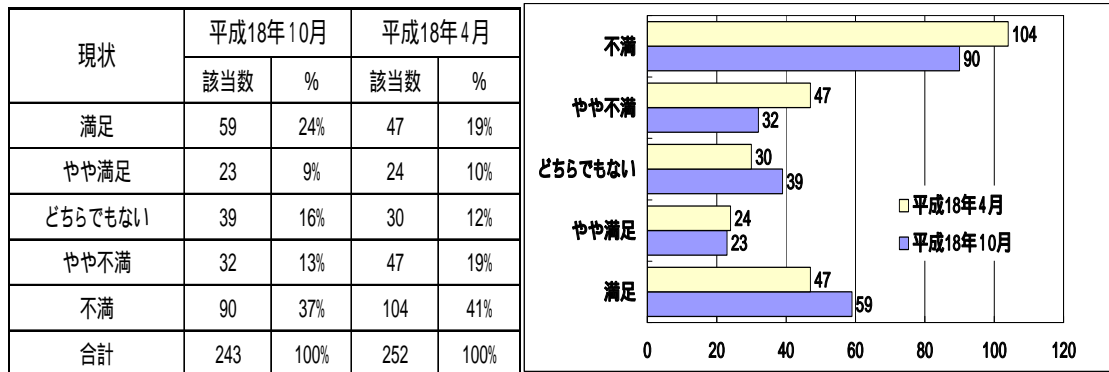
対照的に前回調査を下回った品目としては、一般貨物船鋼材以外(23% 14%)、石油(48% 47%)、自動車(23% 18%)、その他(93% 80%)の4品目となっている。

4. 運賃への転嫁の現状に対する事業者の各品目別満足度について

(1) 全体

前回調査に比べて満足・やや満足の割合が5%増加した。

不満・やや不満は前回調査の60%より10%減少しているが、全体の2社に1社が不満と感じている。



(2) 品目別満足度の割合について

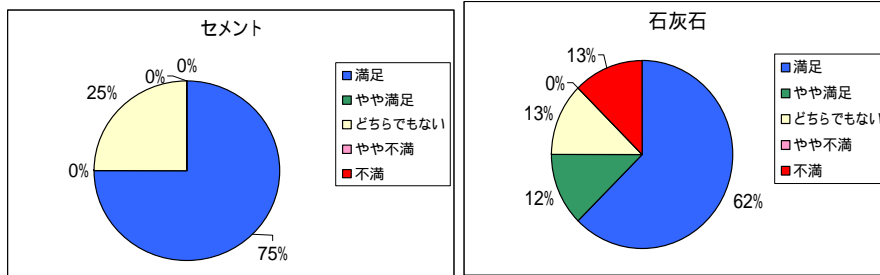
品目名	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
RORO・コンテナ船貨物	3	1	1	3	10
一般貨物船鋼材以外	4	3	5	8	31
一般貨物船鋼材	11	4	5	7	6
ケミカル	2	1	6	0	14
石油	2	10	5	7	10
特殊タンク	7	1	7	4	7
その他専用船砂砂利	1	0	1	0	6
石灰石	10	2	2	0	2
セメント	15	0	5	0	0
自動車	1	1	0	1	1
その他	3	0	2	2	3
計	59	23	39	32	90
構成比	24%	9%	16%	13%	37%

一般貨物船鋼材、石油、特殊タンク、自動車は満足度、不満足度の傾向に二極化が見られる。

これは転嫁割合別品目の傾向で明らかになっているように、同じ品目の中でも各事業者の転嫁内容にバラツキがあることを示す結果となっている。

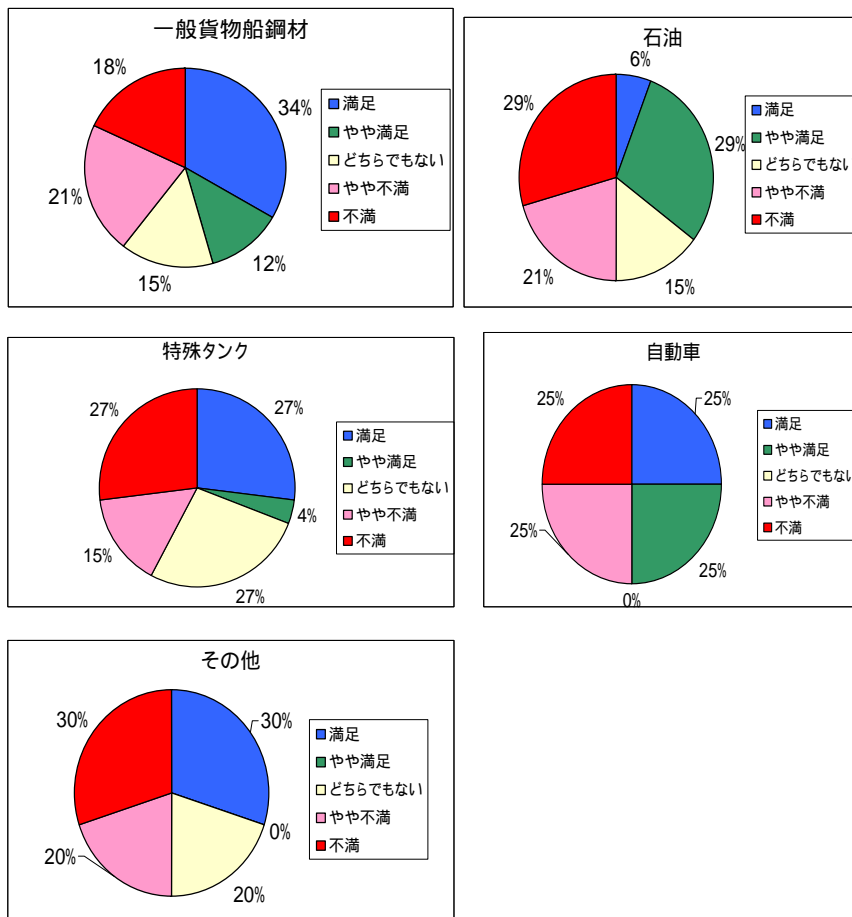
満足度を転嫁方法別に3つのグループに分けられる。

A. 満足度の高い品目（セメント、石灰石）



コスト保証が定着しているセメントの満足度は、転嫁率 100%あり、満足度は大変に高い。石灰石については、バンカーサーチャージ方式によるものが半数を占め、前回調査より転嫁状況が改善されており、満足度は高くなっている。

B. 満足度にバラツキがある品目（一般貨物船鋼材、石油、特殊タンク、自動車、その他）

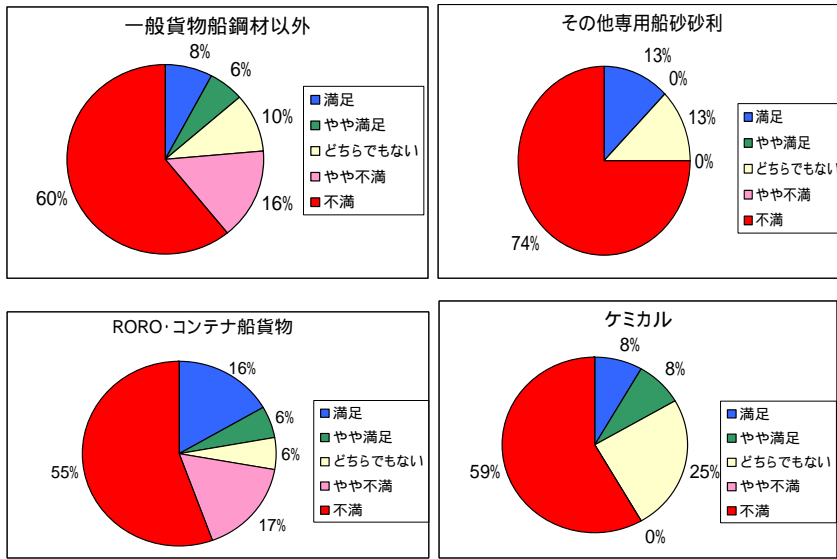


一般貨物船鋼材、石油、特殊タンク、自動車、その他の5品目は、転嫁状況が種々に及んでいるため、満足度も複雑になり、分散傾向にある。

また、石油の転嫁率は、47%であるが10%未満のものが14件あるため、不満度が高くなっている。

自動車については、バンカーサーチャージ方式によるものが95%となっているが、消費量に対する転嫁率が18%と低く満足度は二分されている。一般貨物船鋼材、特殊タンクの2品目は、前回調査と比べて転嫁状況が改善しているにも拘わらず、不満度が高くなっている。

C.満足度の低い品目（一般貨物船鋼材以外、砂・砂利、RORO・コンテナ船貨物、ケミカル）



RORO・コンテナ船貨物は、燃料油の消費量が全体消費量の約 1/4 にあたる 56 万 KL と大量に消費するため、転嫁状況が経営環境に大きな影響を及ぼしており、事業者の不満度が非常に高くなっている。

同様に、一般貨物船鋼材以外、砂・砂利、ケミカルは、転嫁率が極めて低いため、不満度が非常に高くなっている。

以 上